

令和7年10月31日

派遣成 果 報 告 書

有田市議会議長様

議員氏名 一ノ瀬 敦子

有田市議会の議員派遣に関する要綱第5条の規定により、下記のとおり報告します。

記

研修名	第2回こども×Tech 関西 第4回地域×Tech 関西合同セミナー
研修期間	令和7年10月29日（水）～ 令和7年10月30日（木）
研修場所	1 全国市町村国際文化研修所（大津） 2 市町村職員中央研修所（千葉） 3 地方議員研究会（ ） 4 その他（地域×Tech 関西）
研修の成果	別紙のとおり

※ 「研修の成果」は研修内容や所感などを具体的に別葉に作成して添付してください。

※ 研修先から交付される「終了証」等を添付してください。

令和7年10月29日・30日
京都市勧業館 みやこめっせ

第2回こども×Tech 関西
第4回地域×Tech 関西合同セミナー

【第1講】

◎「働く」も「子育て」も応援するまちへ
～あまがさき子ども・子育てアクションプラン～

尼崎市の「子ども・子育てアクションプラン」は、子どもを真ん中に置きながら、家庭と地域、そして働く世代を丸ごと支える仕組みづくりが進められています。

高校無償化や給食無償化といった施策は、その一部です。

注目すべきは、女性の就労率が高まり、利便性を求めて若い世代が転入するという社会の変化を的確にとらえ、「働きやすさ」と「子育てのしやすさ」を両立させる政策のバランスを取ってきた点です。

現場の声に耳を傾け、必要な支援を少しずつ積み重ねてきた結果、安心して子どもを育てられるまちづくりが形になっています。

子育てと教育を支える具体的な取組

・保育・子育て支援の充実

保育料の引き下げを進め、一定の保育料を負担している家庭のうち、きちんと支払いを続けている世帯を優先的に支援。

また、病児・病後児保育の充実、児童ホームの開所時間延長、昼食配達サービスなど、共働き家庭を支える工夫が細やかに行われています。

・学びの多様化と教育DX

令和8年度には「学びの多様化学校」の開設を予定。子ども一人ひとりの学び方や個性を尊重し、教育の選択肢を広げています。

さらに、デジタル採点システムやAIドリルの導入で、教員の負担を減らしながら教育の質を高める取組も進んでいます。

・市民サービスのデジタル化

アンケートや申請手続きをオンライン化し、市民の利便性を向上。

教育・福祉など異なる部局で扱うシステムを共通IDで連携することで、必要な支援情報を迅速に共有できる体制を整えています。・子ども支援の現場改革

子ども支援を担当するケースワーカーは、これまでセキュリティ上の理由で紙ベースの記録を使っていましたが、メモ紛失や再入力などの非効率をなくすため、タブレット入力化を進めています。

家庭とのやりとりもペーパーレス化を進め、スピーディーで確実な支援につなげています。

【第 2 講】

◎高齢者の 8 割以上がスマホで予約

～菰野町 MaaS 「おでかけこもの」 から学ぶ利用者目線の地域交通～

- ・高齢者の 8 割以上がスマホで予約する地域交通システム。

2 時間に 1 本、4 台で運行、年間 5 万人が利用。車内は Wi-Fi・USB 付きで若者世代にも便利です。

- ・料金はエリア内定額、高齢者は 100 円。ウェブ予約で 200 円引きになる仕組みも。

専用アプリ不要で Web ブラウザ上で予約できるため、操作に不安のある方も安心。教室や役所での説明サポートも整っています。

- ・運行時間が決まっており少額運賃のためドライバー不足も起きにくい仕組み。

高齢者にも若者にも優しい、利用者目線の地域交通モデルとして学ぶことが多くありました。

【第 3 講】

◎「JCLaaS」持続可能なまちづくり

- ・移住はハードルが高く、人材獲得は地域間で競合しています。

二地域拠点を持つことで、災害時の避難場所確保や都会と田舎のつながりを作ることができます。

・空き家改修やコワーキングスペース、交流施設整備などの官民連携施策や、多様な補助制度も整備。交通費・宿泊費や住民登録制度など、中長期的課題への対応も検討されています。

・コーディネーター設置など制度面の支援も進められ、利用者目線で持続可能な地域づくりのモデルとなっています。

【第 4 講】

◎ICT で支える保育士と保護者双方の安心

～和歌山県が目指す魅力ある保育現場～

和歌山県では、保育士の働きやすさと保護者の安心を両立させる保育環境づくりに向けて、ICT を活用した取り組みを進めています。

- ・ICT を活用した保育・保護者支援

県主催のオンライン説明会では、保育料の試算や午睡時間、保護者への連絡網などを ICT で一元管理・提供。これにより、保護者は情報を迅速に確認でき、保育士も効率的に業務を行うことが可能になっていました。

- ・魅力発信事業と学生参加

保育現場の魅力を発信するため、ポータルサイトを作成。

和歌山信愛大学の学生とともに動画撮影を行い、学生目線でより良い保育所の魅力を伝える取り組みが行われています。

動画では、地域の特色や保育士目線の職場づくり、ICTを活用した業務改善などを紹介。

- ・働きやすい職場づくり

保育士の悩みや課題の解決に向けて、社会保険労務士も参画。

職場環境の改善策を検討し、働きやすい職場づくりを推進。

動画コンテンツ「あづかるこちゃん」も公開され、保護者や地域住民への情報発信に活用されています。

【第5講】

◎DXで進める防災・減災の取り組み

～デジタルツインでまちを守る～

- ・田辺市では、防災・減災の迅速化と省力化を目指し、デジタルツインを活用しています。

避難計画では、水平避難や垂直避難のリスクを可視化し、樹木や障害物をAIで消去して避難経路を確認できます。

- ・発災時にはドローンで各地区を撮影し、情報をデジタルで集約して即座に見える化。

復旧時には進捗状況や罹災状況を早急に把握でき、仮設住宅建設や復旧計画に役立てられます。

- ・消防業務や文化財管理にも応用され、危険空き家の情報共有や改修計画、空き家利活用にも活用されています。

デジタル活用によって、防災・減災の精度とスピードが大きく向上していることを実感しました。

○5つの講義を聴講して

地域政策は一人ひとりの生活に直結しており、ICTやデジタル技術の活用が政策の実効性を高めることを実感しました。

子育て支援、地域交通、まちづくり、防災はいずれも「誰も取り残さない視点」と「現場の利便性向上」が重要です。学んだ知識は有田市の施策に生かし、より安心・安全で住みやすい地域づくりに取り組んでいきたいと感じました。